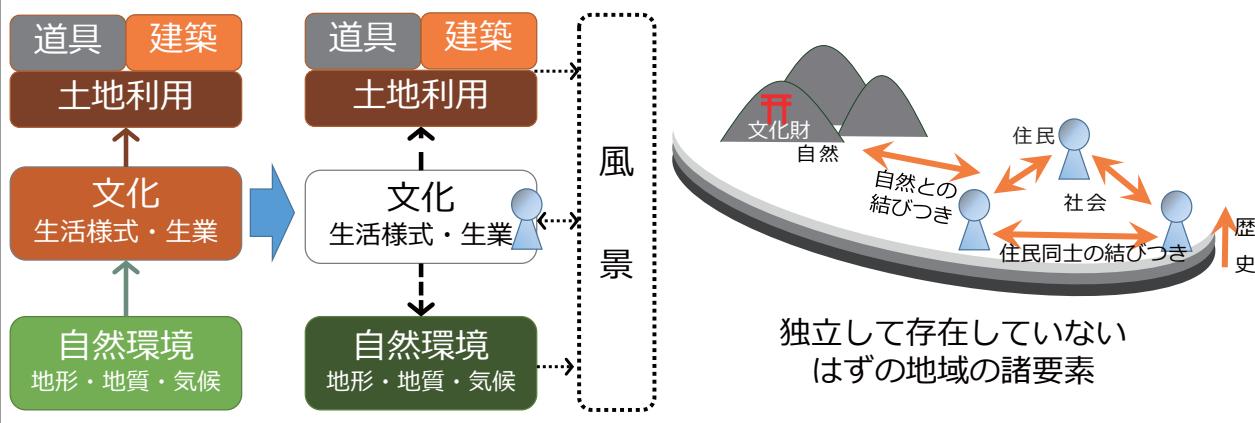


地域の特徴を表出させ共有する方策

諸要素の関係、要素の位置づけ（集団表象+多様な個人表象）

場所づくりへの展開（不動産・可動産・利用）



## 理論的立場、アプローチなど

総体と要素（ゲシュタルト）

見え方（総体）と要素・集団表象と個人表象  
視点場の位置と整備内容（共通感覚）

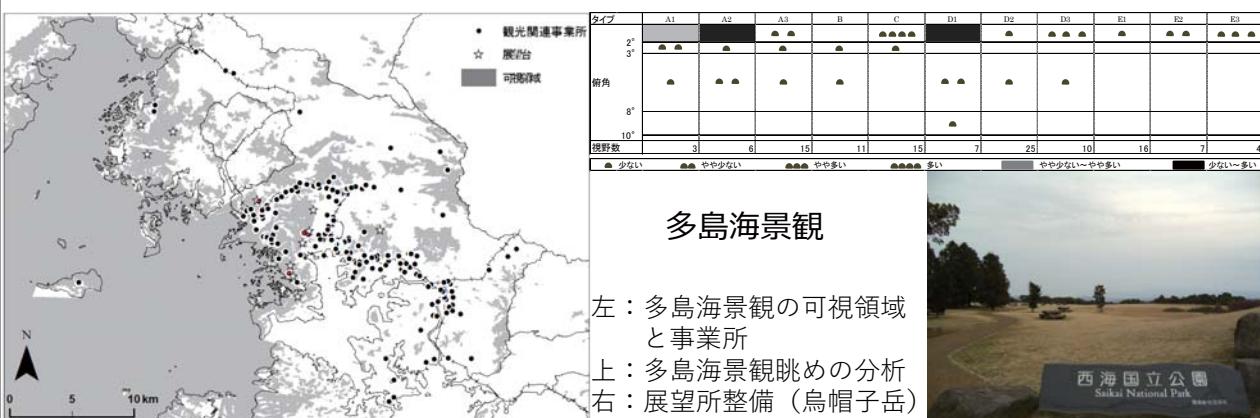
見え方（位置）と体験（整備内容）

規範と実体 情報・メディア（法制度等）と実体

史料：地誌・紀行文・日誌  
絵図・写真

地図：地形図・土地利用図・GIS

長期にわたる変化・因果関係

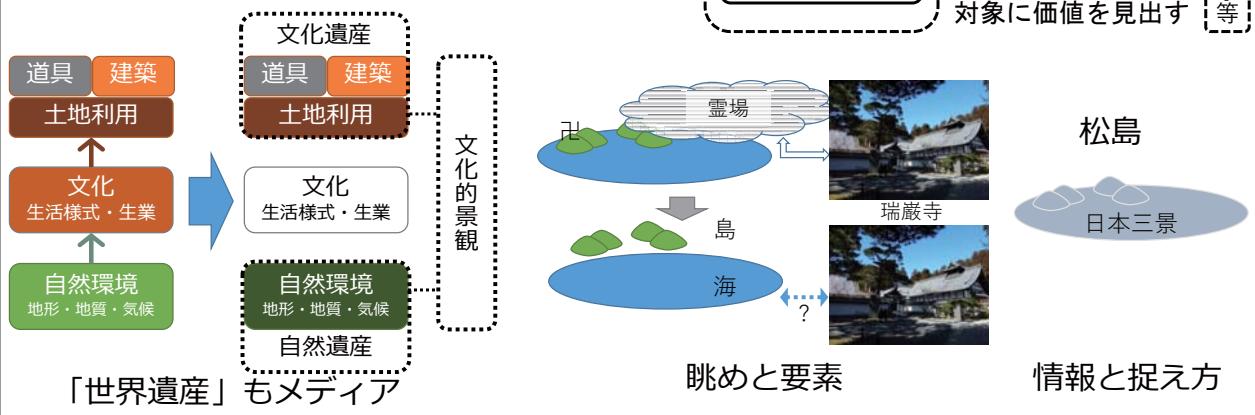
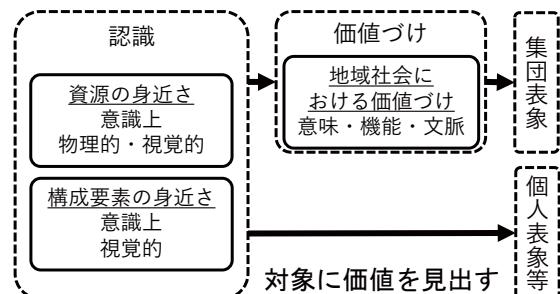


## 具体的な事例

集団表象の形成過程（海岸林）

眺めと要素（松島）

情報・メディアと捉え方  
(松島・世界遺産)





## 風景計画研究の意義

### 風景計画

人と空間の関係を操作する体系であることに間違いはないが



### 2つの風景計画

**風景計画 = 「風景地休養計画」** 風景地の鑑賞及び休養価値を認識して、之を大衆の文化生活の内容としての其等の用に供し得るようにする目的を以て、保存又は改更する組織的・統制的計画一般を云ふ  
(永見健一, 1936)

保健衛生、レクリエーション、ロマン主義的自然賛美、国立公園、物理的景観、景観把握モデル  
(塙田らの)

→ 個人に還元される風景体験の提供

**風景計画 = 「地域社会空間計画 or 地域空間資源化計画」**

地域づくりなど、資するための風景、  
価値観の多様・重層化を前提とした地域空間・場所・風景の意味の読み解き

→ 地域で共有される集団表象的風景の準備へ

水内佑輔 東京大学演習林



## アプローチと方法論

文化的景観や景観計画（景観法）の定着以降の世代（個人的経験としても）  
風景の価値づけの多様化に直面するなかで…

### ① 風景計画史研究

- ・日本の空間・価値観の扱われ方（特に国立公園）
- ・農村・里山など傑出しない風景の扱われ方



### ② 空間情報技術を活用した風景体験の把握

- ・「眺望景観」的な静的風景ファーストへの違和感  
視覚像としてよりサイト全体での体験を捉えたい
- ・写真投影法にGPSやGISを組み合わせた調査により  
「囲繞景観」的、視点場の空間的状態を重視



### ③ 地域空間形成史の読み解き

- ・文献資料やGISによる空間解析によるランドスケープ的価値の付与を  
目標とした人と空間の関係にもとづく地域空間形成過程の読み解き

2



## 研究事例紹介

### ① 風景計画史研究

- ・田村剛に着目した国立公園計画史：制度・空間的ローカライズの選択
- ・上原敬二、小寺駿吉らの郷土風景論の展開

### ② 空間情報技術を活用した風景体験の把握

- ・韓国・高尾山での調査事例（水内ら, 2015) (Mizuuchi et al, 2016)
- ・サイトの風景体験特性の把握と経験的セオリーの実証



### ③ 地域空間形成史の読み解き

- ・地域づくりの一環として行われる空間的実践にむけた  
場所の価値の読み解き：瀬戸市陶祖公園



表層的  
モチーフによる  
空間整備

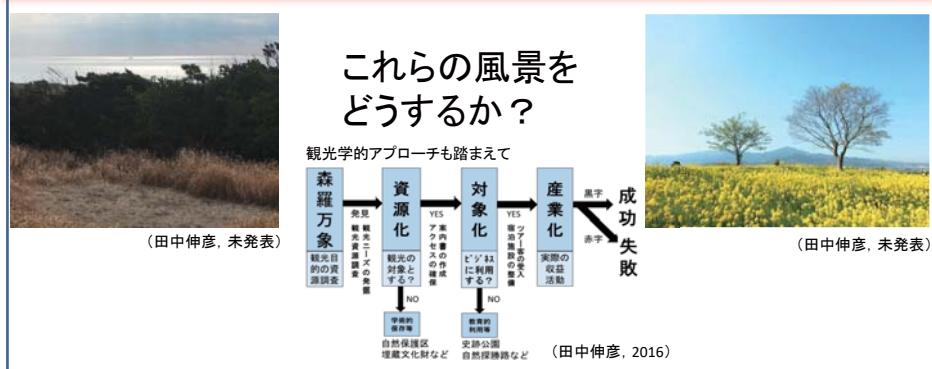


地誌・名所図会



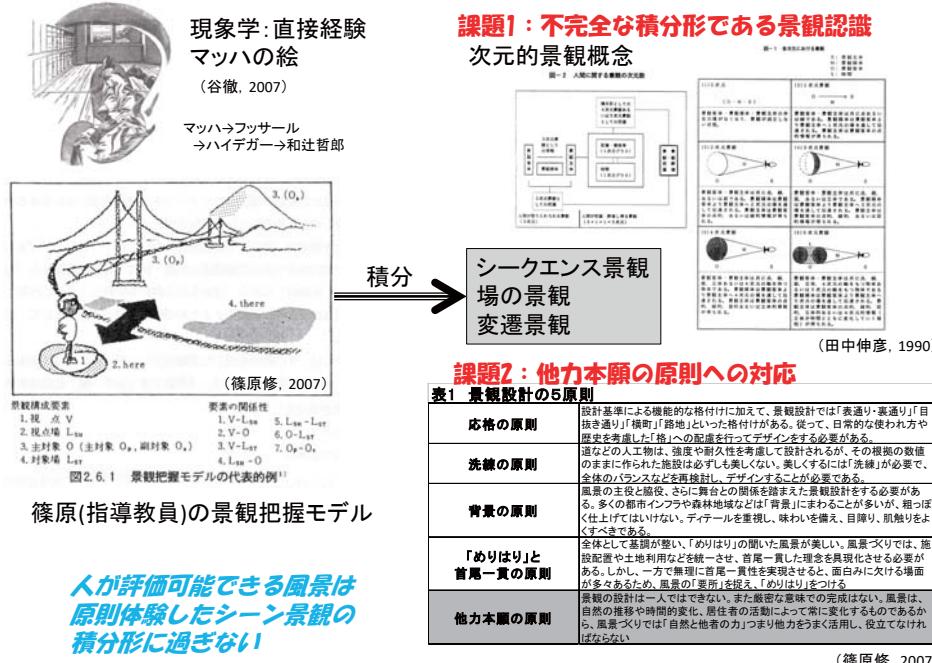
地図・GIS

なんだかよく分からなくて複雑だが、傑出して魅力的だとも言い切れない里山の様な風景を、そこそこ良くする研究が必要ではないか？



## エビデンスに基づいた科学的風景分析/評価 風景を創る技術を普遍化する計画学的アプローチ

### ②自分の理論的立場、アプローチなど(方法論や手法論など)



### ③具体的な事例(これまでやった研究や実践事例)

#### (1) 景観把握体験を担保する

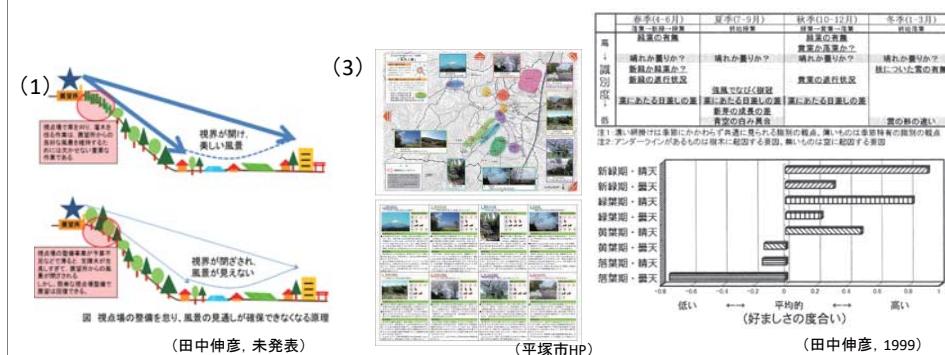
→見通しの悪い展望地の改善の提案 など

#### (2) 時間/空間要素を分析する

→同一構図の森林風景の晴れ/曇り、季節による評価/認識の変化

#### (3) 記憶/類推に働きかける

→間主観的評価基準の養成(吉沢八景選定プロジェクト)



**都道府県を超えるマクロレベルでの計画から、  
限定的なエリアを対象としたミクロレベルでの計画まで、  
風景の分析・評価手法を一貫して導入すべき！**



## 「変化する風景」を如何に捉えるかが課題

- 社会や時代に応じて変化する風景の価値をどうとらえるか？
- 視点場と視対象との関係により無限に変化する風景をどうとらえるか？
- 自らの体験や外部からの働きかけにより変化する風景に対する人の認識や評価をどうとらえるか？
- 自然の営力によって変化していく風景をどうとらえるか？
- .....

②自分の理論的立場、アプローチなど(方法論や手法論など)

### (1)社会や時代に応じて変化する風景の価値の捉え方

→新たな価値を生み出す要素や価値の評価に資する指標を  
丁寧に掘り起して分析に加えていく

### (2)視点場と視対象との関係により変化する風景の捉え方

→視点と視対象との関係における代表性・傑出性を評価して優先  
すべき風景を特定する

### (3)体験や働きかけにより変化する風景の認識・評価の捉え方

→参加型手法による体験や情報の共有・意見交換等を通じて、風景  
の認識・評価の差異と共通点を確認し、働きかけを継続すること  
により認識・評価を収斂・向上させる効果的方法を探る

### (4)自然の営力によって変化する風景の捉え方

→風景を構成している様々な自然要素が、時間の経過と人為的管理  
強度の違いによりどのように変化するかを予測することはできないか？

**この課題を実現する新たな手法・技術の開発を期待！**

③具体的な事例(これまでやった研究や実践事例)

#### (1)新たな価値を生み出す要素や価値の評価に資する指標 を丁寧に掘り起して分析に加えていく

(1)



(2)



- 地域内から、広域的な視點を望むる視対象の分布状況を把握
- 地域の歴史を物語る資源、現代の伝統地域における産業資源、観光資源を把握
- 地域の歴史と文化を物語る資源、文化財を抽出した場合は、その属性を記載する
- 広域的な視點を構築する、地域内の歴史・文化を物語る場（拠点場所）を抽出

図2 富士山の眺望景観特性  
(富士山の大観) (山梨県、H26.12)

(3)



#### (3)参加型手法による体験や情報の共有・意見交換等を通して、 風景の認識・評価の差異と共通点を確認し、 働きかけを継続することにより認識・評価を収斂・向上させる 効果的方法を探る

1) 財團法人国立公園協会 (2011) 平成22年度国立・国定公園総点検業務報告書。

2) 山梨県 (2014) 山梨の大観

3) 株式会社ブレック研究所 (2011) 平成21年度雲仙天草国立公園雲仙地域再整備計画策定業務(縦越)報告書

図5:「あるもの探し」  
における計画検討の手順<sup>3)</sup>

## 私の考える風景計画研究の意義「現代に求められる風景計画研究とは」 (結論? メッセージ)

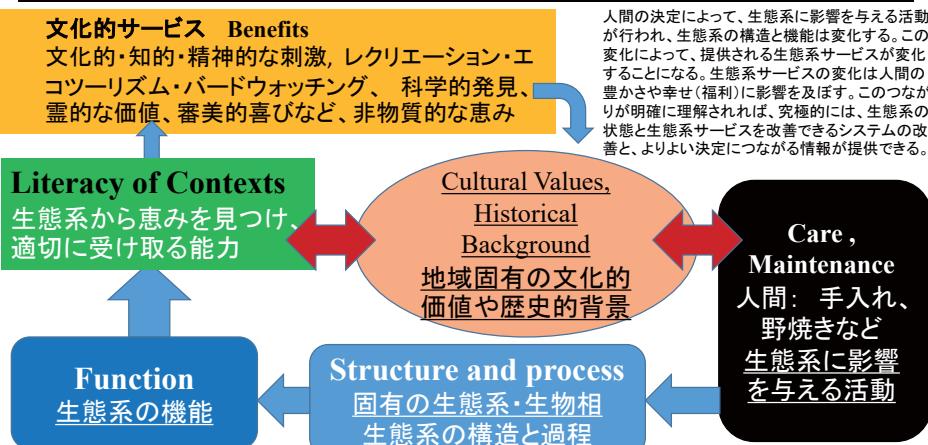


Fig. A Socio-ecological Model to Enhance Values of Cultural Landscape

着想 ◆観研「富士山北麓の宗教的文化資源に対するランドスケープのアプローチ」(2016)  
◆LA:公園緑地保全活動への認知・参加、関心の意識構造と文化的生態系サービスとの関連性（投稿中）

小林 昭裕

## 私の考える風景計画研究の意義「現代に求められる風景計画研究とは」 (結論? メッセージ)

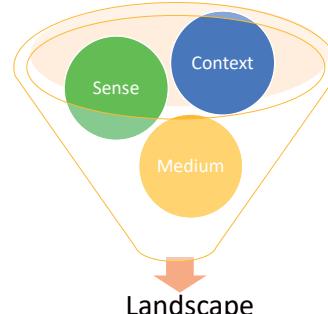
### 自身: 対象、視座 + A Socio-ecological Model

- + 先達の著作 → 帰納的推論「直観の飛躍」  
(Robert Grosseteste, 1175 ? - 1253)
- ✓ 西田正憲(1999)「瀬戸内海の発見」 意味の風景から視覚の風景へ～、中公新書
  - ✓ 桑子敏雄(2005)「風景の中の環境哲学」、東京大学出版
  - ✓ 西村幸夫、伊藤毅、中井祐(2012)「風景の思想」、学芸出版社

Big Picture of Inter-relationship  
between Man & Env.

小林 昭裕

2



## 私の考える風景計画研究の意義「現代に求められる風景計画研究とは」 (結論? メッセージ)

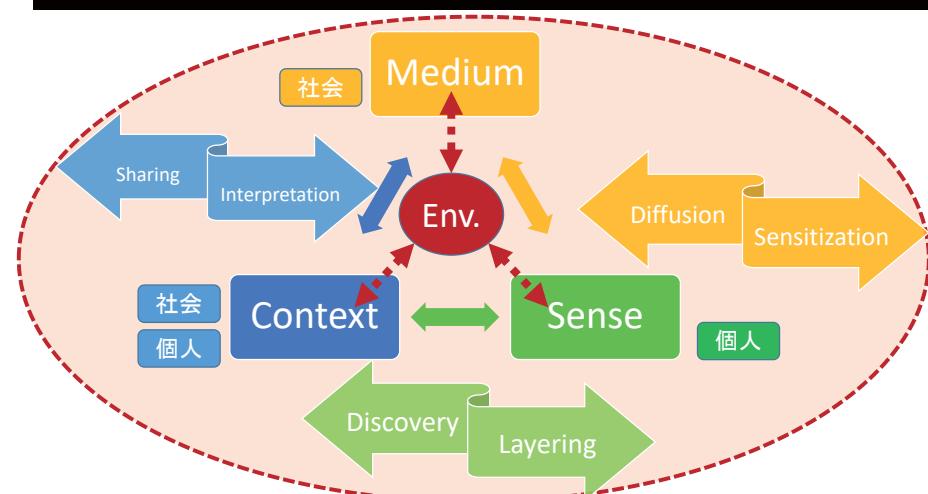


Fig. A Interactive Model among Sense, Context and Medium of Landscape

小林 昭裕

3



2018/5/27 造園学会全国大会 風景計画ミニフォーラム 寺田徹

## 風景を動かす—生きた風景／ダイナミックな風景の再生

### 「現代社会において日常的な存在でない風景」の再生

- ・風景に対する認識 = 経験により醸成される
- ・認識が浅いと再生の実感がわかない → 風景の認識強化に資する研究  
【LTSESM: Long Term Socio-Ecological System Monitoring】  
動いている風景 → 現実空間で動かす  
@栃木県茂木町  
30年計画 (2018-2048)  
視点 空中（鳥の目）  
地上（人の目）  
季節性（春夏秋冬）  
 $4 \times 30 = 120$ 回撮影
- ・認識だけでは再生できない

### → 風景を動かす現代的社會経済システムについての調査研究



2018/5/27 造園学会全国大会 風景計画ミニフォーラム 寺田徹

## 都市／都市近郊の里山をめぐる4つの問い合わせ —多元的価値観・風景観について

### 1. 開発 vs. 保護

市街化するか、自然として残すか。

} 公益性にもとづく  
空間計画の問題  
—緑地計画的課題？

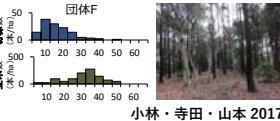
### 2. 保護 vs. 保全

手を入れずに守るか、手を入れて守るか。

} 人の価値観にもとづく  
自然との関わりの問題  
—風景計画的課題？

### 3. 保全 vs. 利用

里山景観を再生するか、公園的にするか。  
Refueling or Parkification (Terada et al. 2010)



} 緑地か風景かを越えて  
多元的価値観がなければ  
解決できない課題

### 4. 開発 and 保護 and 保全 and 利用

社会的・生態系にどうバランスさせるか。

# 風景計画における問題意識

風景計画における明確な基準やマニュアルはほぼない  
例 診療内科における診断 : DSM-V、ICD-10  
※ 景観アセス等に関する事項は除く



## ● 風景計画の意義

- ①適切な風景資源の保全と利用のあり方を明らかにする（広義）
- ②得られた知見の現場へのフィードバック（現在必要）



## 理論的な立場・アプローチ

### ➤ 理論的立場：環境心理学的手法

#### 1 自然(森林)環境



#### 2 利用者



#### 3

- ①自然・環境が持つ特性(物理・心理)  
②利用者が享受する心身への影響  
③知見の現場へのフィードバック

①②をふまえ、どのような形で実践できるのか探る(3)。

#### アプローチ

- 質問紙調査
- 生理実験
- オン・オフサイト実験



国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 高山 範理 於 風景計画推進委員会MF

## 研究事例

#### 1 自然(森林)環境が持つ特性 (物理・心理)



樹木の密度の計測／被験者による評価の測定

#### 2 利用者が享受する心身への影響の把握 (心理・生理)



映像あり (木漏れ日)  
VS 映像なし



#### 3 知見等の現場への フィードバック



Table1. 森林環境の回復効果  
(Perceived Restorativeness Scale)

環境セッティング	過剰	適了	まわり	視野	適合性	熟知度	好み
森林環境	34.48	31.96	22.39	27.52	28.20	3.39	10.89
都市環境	20.77	27.06	21.20	18.77	23.49	5.43	7.71
標準偏差	12.51	9.79	6.98	9.20	8.00	2.89	4.71
森林環境	13.60	10.30	8.75	8.62	6.59	2.75	4.10
都市環境	0.00	0.03	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00
P値							
有意差	**	*	-	**	**	**	**

\*Wilcoxon signed-rank test \*\*p<0.01 \*p<0.05 -p>0.05

Table2. 木漏れ日照明暴露前後の心身への影響

唾液アミラーゼ (Ami)	主観的回復感 (ROS)	気分 (POMS)
↓ **	↑ **	緊張・不安 抑うつ 怒り 活気 疲労 混乱 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓

\*ANOVA-Bonferroni \*\*:p<.01

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 高山 範理 於 風景計画推進委員会MF

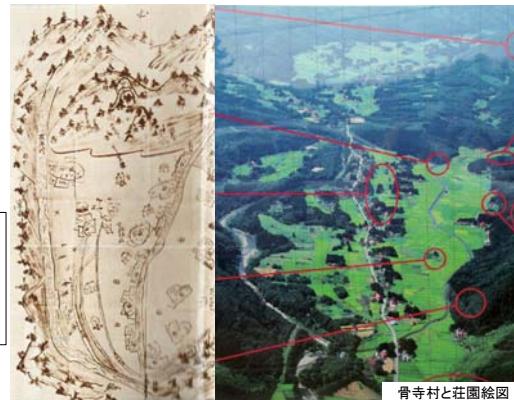
1. 里の風景は歴史的風景だが、歴史分析が弱いのでは

建築史と日本史の共同研究から生まれた都市史学会にならない、農山村でも史学、歴史地理学、民俗学との共同研究が欲しい！

2. 文書史料、絵画史料が残っている風景しか評価されないのは問題

史学における「景観」研究の始まりでは  
違った問題意識

- 史料のない時代は存在しないよう錯覚。
  - ある場所、地域の歴史を通史として把握したい。
  - 「景観」も史料になるのでは！
- (木村礎「ものがたり日本列島に生きた人たち 10景観」より)



骨寺村と莊園絵図

### 3. 造園の風景に欠けているもの

- 見たまえ、そこに小さな料理屋がある。泣くのとも笑うのともわからぬ声を振り立ててわめく女の影法師が障子に映っている。  
(国木田独歩: 武蔵野)

- 子供を二人まで鉄で斬り殺した男の話(柳田国男: 山の人生)
- 気の弱いブリキ屋の仕事(今和次郎: 考現学入門)

- 落人伝承をもつ家が住みついた場がいったん荒れ、そこを六兵衛さんという人が興し、やがて彼も退転して再び荒れ、そこをカラフトから引き揚げてきた一家がもう一度興して住みついた…  
(香月洋一郎: 景観のなかの暮らし)

- 風景とは歴史である。それが目に見える形で、あるいはさらに五感によって把握できなくてはならない。(風景の歴史の学際研究を！)

- 風景は希少性で評価されるのではなく、国土の全てにわたって存在する普遍的なものと認識されるべきである。

- 風景とは人間である。むらの風景は無名の個々人の手の痕跡だ。  
(個々人の開拓から始まり、水路や道が協働でつくられ…)

- 風景計画とは、国家や資本から、地域の  
共同的創造力に風景を取り戻す行為で  
ある。



# 学びと風景 その役割と展望

2018年5月27日 日本造園学会ミニフォーラム  
東京農業大学地域創成科学科 町田怜子

## 鈴木 忠義 先生

- ・造園は人の喜びを追求する学問
- ・川場村を学びのフィールド圏に

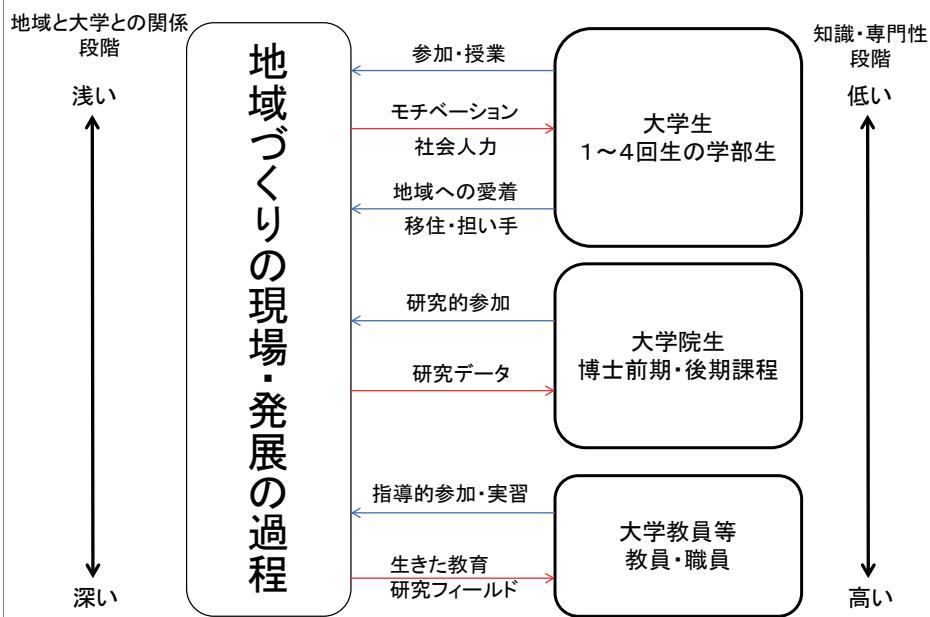
## 進士 五十八 先生

- ・美しく豊かで環境と調和する風景デザインには、  
①市民の景観意識、②行政の積極性、  
③専門家の具体的実践的提言能力の向上が必要

## 麻生 恵 先生

- ・交流による学びの効果は学生だけでなく、地域住民側を含めた双方にもたらされる。  
学生：体験や感動、学びのモチベーション、社会人力  
地域：誇りや地域の価値への気づき

### 大学と地域とのかかわり 教育のステップ

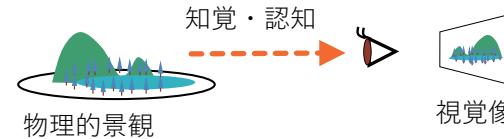


麻生恵・矢野加奈子・町田怜子作成(2018)

①私の考える風景計画研究の意義「現代に求められる風景計画研究とは」

「ポスト景観学」としての「風景学」  
 →まちづくりの論理を支える、  
 参加型デザイン・合意形成のためのコミュニケーション

「景観研究」：認識論的アプローチ



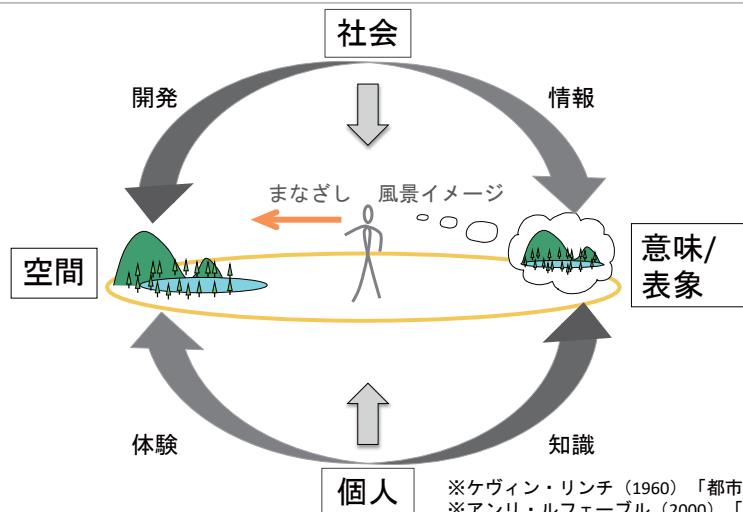
「風景研究」：現象学的アプローチ



※風景論とは、「関係という縁を重視する空間論である」 中村良夫（1982）「風景学入門」

②自分の理論的立場、アプローチなど(方法論や手法論など)

風景計画：私たちの生存環境、生活世界を取り巻く  
 空間・表象・社会・個人の動態的な関係を  
 つなげたり、つなぎなおしたりする

※ケヴィン・リンチ（1960）「都市のイメージ」  
※アンリ・ルフェーブル（2000）「空間の生産」

③具体的な事例

- ・風景イメージスケッチ手法
- ・観光まちづくりの実践
- ・社会構造の変化に対応した新たな墓地空間

